

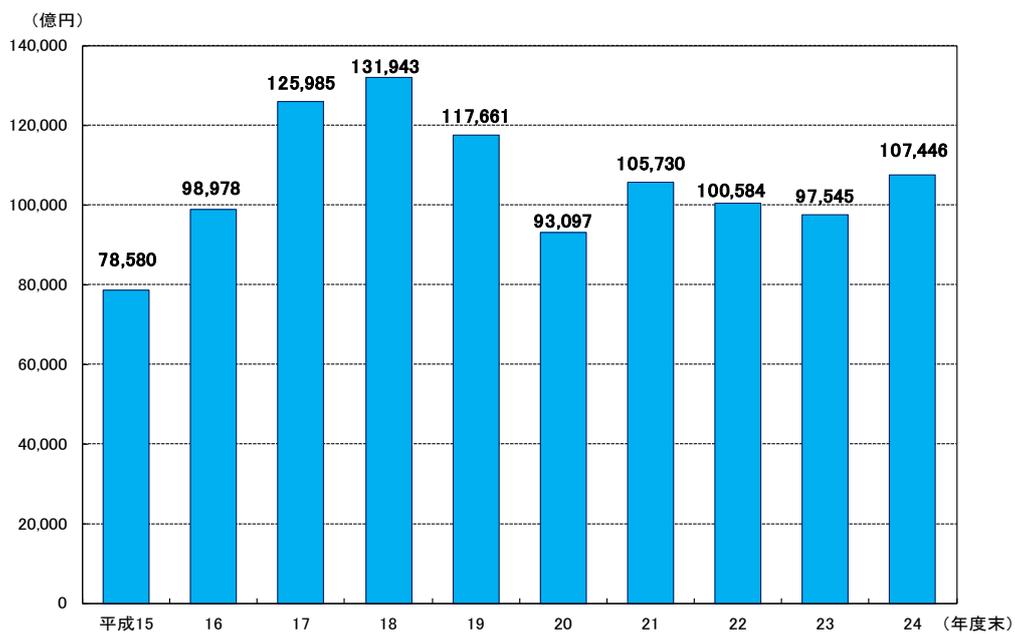
平成24年度(2012年度)
年金資産運用状況

1. 資産残高

◆資産残高(平成25年3月末)

10兆 7,446億円

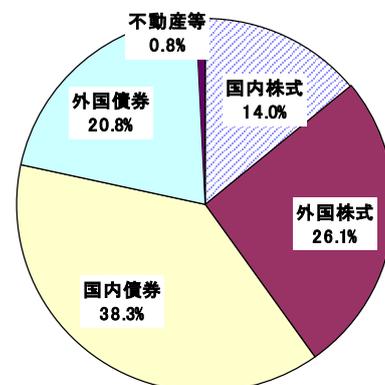
資産残高の推移



2. 資産構成割合

◆資産構成割合(平成25年3月末)

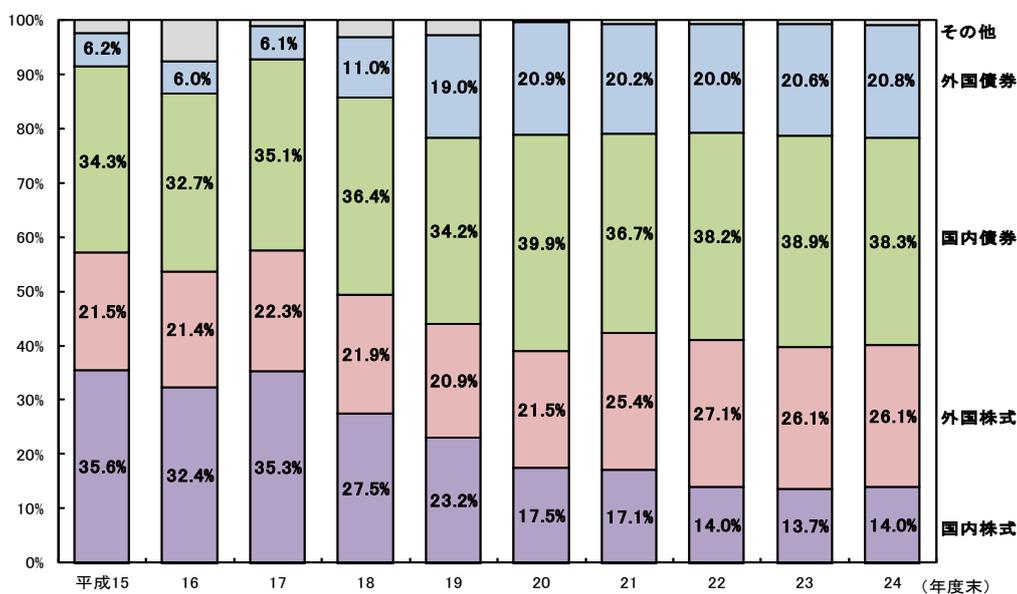
内外株式	40.1%
国内株式	14.0%
外国株式	26.1%
内外債券	59.1%
国内債券	38.3%
外国債券	20.8%
不動産等	0.8%



◆政策アセットミックス基準値(平成25年3月末)

内外株式	40.0%
内外債券	60.0%

資産構成割合の推移

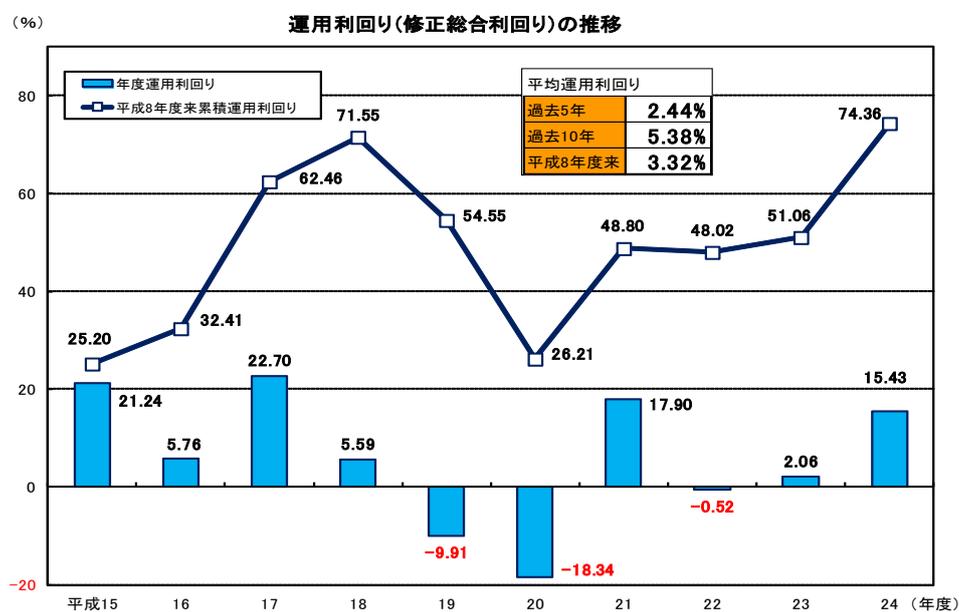


※平成20年度以降は、マネジャーが一時的に保有する短期資金を、「その他」の資産に含めずに各資産内に計上している。

3. 運用利回り

◆修正総合利回り

当年度	+15.43%	
過去5年平均	+2.44%	
過去10年平均	+5.38%	
過去17年平均	+3.32%	(平成8年度以降)

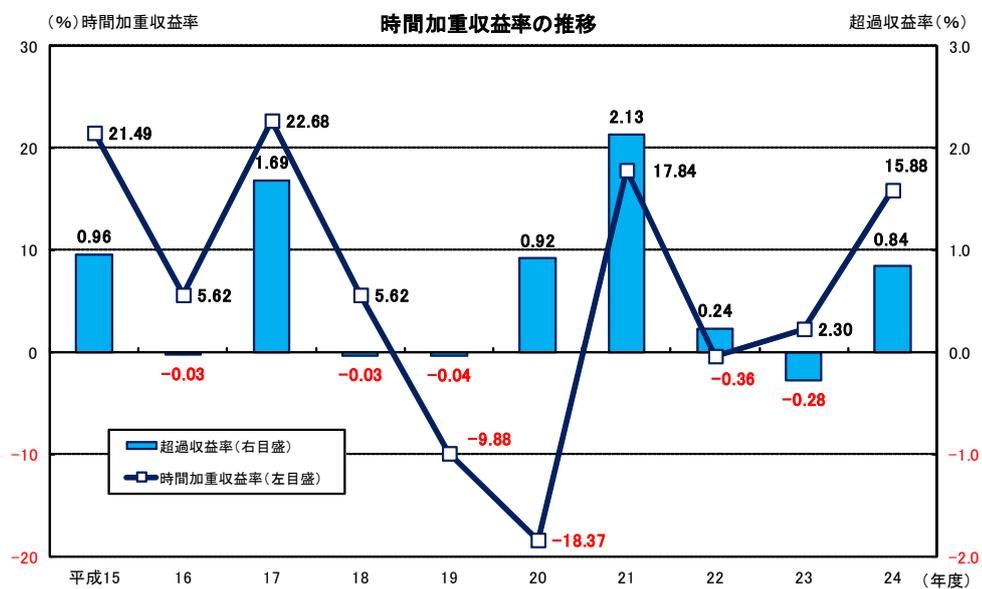


※平成8年度に資産配分規制が撤廃され運用が自由化された。

◆時間加重収益率

全資産	+15.88%
国内株式	+23.99%
外国株式	+28.19%
国内債券	+4.35%
外国債券	+16.68%

政策アセットミックス基準値に対する超過収益率 +0.84%



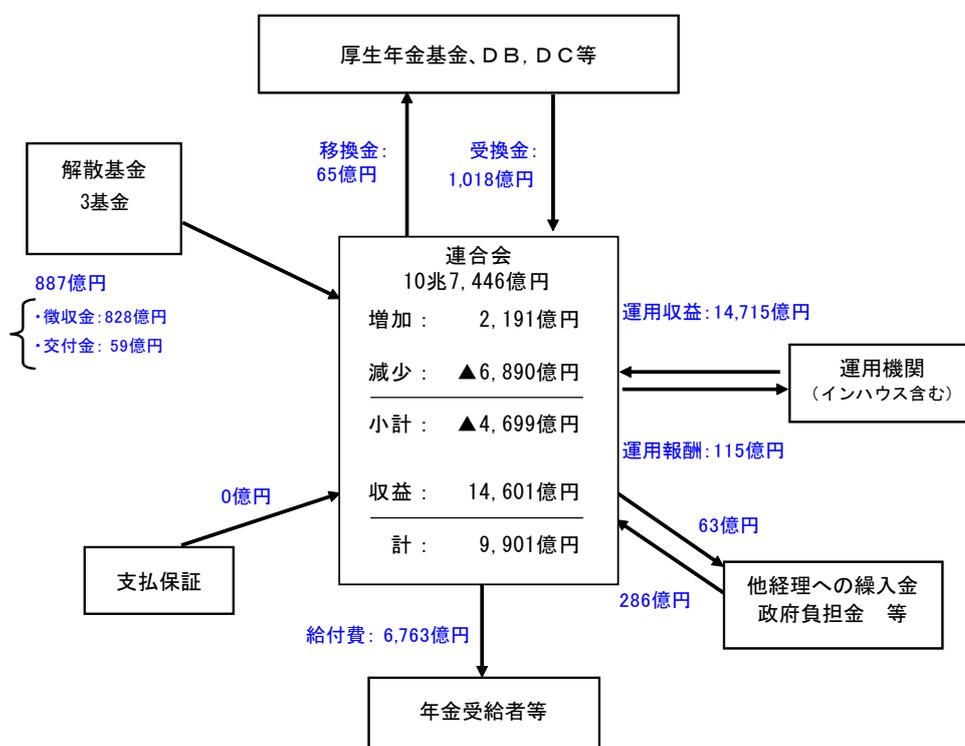
4. リバランス実施状況およびキャッシュフロー

平成24年度は、期初から欧州債務問題や世界的な景気の先行き不透明感から株価が下落し円高が進行するなか、内外株式比率が基準値を下回る状況が続いた。5月下旬にギリシャの選挙で与党が大敗したことでユーロ離脱懸念が強まったことから、より一層リスク回避的な市場環境となり、内外株式比率は基準値を3%程度下回る状況となった。これに対し、ポートフォリオ・オーバーレイにより株式比率を高めるリバランスを実施し、株式の下方乖離の調整を行った。また、年度前半の年金給付等によるキャッシュアウトへの対応は基準値から上方乖離していた債券から回収を行いこれに充てた。

11月以降、アベノミクスに対する期待等による株価上昇と円高修正で、逆に内外株式比率が基準値を上回る状況が続いたことから、株式の売却で比率を調整し、その売却資金を11月以降のキャッシュアウトに充てた。

11月下旬から年度末までのリバランスは計9回、5,800億円の株式売却となった。うち2,370億円を11月以降のキャッシュアウトに充て、残りは翌年度以降のキャッシュアウトに備えて給付専用ファンドにプールした。

キャッシュフローの状況(平成24年度)



※各値はキャッシュベースの集計値

5. 資産別運用状況

(1) 内外株式

- ① 内外株式のベンチマークは、「TOPIX(配当込み)」34%、「MSCI-KOK USAI(円換算・配当再投資・Net)」66%の割合で加重したカスタム・ベンチマーク。
- ② 国内株式のベンチマーク超過収益率: +0.17%
 - 今年度のアクティブ運用の超過収益率: +0.39%
 - アクティブ運用の3年ローリングパフォーマンス: +0.35%(年率)
 - アクティブ運用の5年ローリングパフォーマンス: +0.95%(年率)
 - パッシブ運用(インハウスファンド)の割合: 平均で50%
 - インハウスファンドにおいては、マーケットの下落時にオーバーレイマネジャーの役割を適切に果たすとともに、株価が大幅に上昇した期末にかけて、リバランス対応のオペレーションを着実に実施。
- ③ 外国株式のベンチマーク超過収益率: +0.03%
 - 今年度のアクティブ運用の超過収益率: +0.50%
 - アクティブ運用の3年ローリングパフォーマンス: +0.86%(年率)
 - アクティブ運用の5年ローリングパフォーマンス: +0.14%(年率)
 - パッシブ運用の割合: 平均で45%

(2) 内外債券

- ① 内外債券のベンチマークは、「バークレイズ・キャピタル日本総合インデックス」75%、「シティグループ世界国債インデックス(日本を除く、円換算)」25%の割合で加重したカスタム・ベンチマーク。
- ② インハウス運用の割合は、国内債券で74%、外国債券で40%。
- ③ 内外債券のベンチマーク超過収益率: +1.37%
 - マネジャー・インハウス効果: +1.14%
 - 内外債券アロケーション効果: +0.11%

外貨のオーバーウェイトが一部プラス寄与。内外マネジャー(インハウスを含む)の超過収益およびインハウスでの通貨配分の調整等が大

幅にプラス貢献。

- ベンチマーク選択効果: +0.06%
エマージングおよび外債クレジットのベンチマーク選択がプラスに寄与。
- 取引その他効果: +0.06%
主にキャッシュフローの影響による月次要因分析の累積計算上の誤差。

- ④ カスタム・ベンチマークを採用した平成22年度以降の3年間の平均超過収益率は、年率+0.81%と中期的超過収益率目標+0.5%を大幅にクリア。

(3) ヘッジファンド

- ① 平成24年度末の投資残高は約4,500億円。
- ② 外国株式α戦略(株式ロング・ショート)では、同戦略の運用開始以来3年目を経過したため、運用効率改善の観点からマネジャーの入替えを実施。
- ③ 外国債券α戦略(イベントドリブン中心)について、運用効率の改善に努めた。
- ④ 昨年度と同様、リスク管理強化の観点から、運用内容に関する透明性の改善およびプログラム全体のリスク把握の改善に努めた。
- ⑤ 平成24年度のリターンは、二つの戦略を合計した複合ベンチマークに対する超過収益率で+1.45%。

(4) プライベート・エクイティ

- ① 平成24年度末の投資残高は1,580億円。同年度内の新規投資額は360億円、分配額は200億円。
- ② 資産配分上は株式への配分として取り扱っている。
- ③ 平成24年度は中期投資計画に基づき、650億円の新規コミットメントを実施。引き続き、地域および戦略等の分散に留意しつつ、向こう数年間の投資をカバーする優良ファンドを選定。

(5) 不動産

平成24年度末の投資残高はオフィスビルを中心に840億円。

- 前年度からの増加額(210億円)は、主にオフィス関連と住宅関連の新

規投資による。

(6) 国内株式株主議決権の行使状況

行使対象議案数	6,427件
賛成	5,727件 (89.1%)
反対	700件 (10.9%)

※平成23年7月～平成24年6月開催の株主総会分
※連合会インハウスファンドと委託先運用機関の合計
※株主提案を除く。

6. 参考データ

(1) 委託運用・自家運用（インハウス運用）残高の推移 (百万円)

事 項	20年度末	21年度末	22年度末	23年度末	24年度末
合 計	9,309,750	10,572,954	10,058,374	9,754,497	10,744,611
委託運用	6,441,966	6,894,527	6,036,787	5,560,402	6,061,250
自家運用	2,867,783	3,678,427	4,021,587	4,194,095	4,683,362

(2) 自家運用（インハウス運用）の状況

1. 国内株式ファンド

(%・百万円)

事 項	時間加重収益率	ベンチマーク	実績トラッキング エラー	年度末残高
ファンド I	23.64	23.48	0.05	473,118
ファンド II	24.93	23.82	1.01	227,787

※ファンド I のベンチマークは、Russell/Nomura Primeインデックス(配当込)、ファンド II のベンチマークは、TOPIX(配当込)。

※リバランスやマネジャーの入替えに伴うランジションマネジメントの影響等により、ファンド II の実績トラッキングエラーが高くなっている。

2. 国内債券ファンド

(%・百万円)

事 項	時間加重収益率	ベンチマーク	超過収益率	年度末残高
ファンド I	3.99	3.68	0.32	1,320,560
ファンド II	4.01	4.07	-0.06	1,797,069

※ファンド I のベンチマークは、バークレイズ・キャピタル日本総合インデックス。ファンド II のベンチマークは、シティグループ世界国債インデックス日本。

3. 外国債券ファンド

(%・百万円)

事 項	時間加重収益率	ベンチマーク	超過収益率	年度末残高
ファンド I	18.41	17.73	0.68	349,158
ファンド II	18.33	17.73	0.60	382,785
ファンド III	22.15	22.98	-0.83	78,262
ファンド IV	12.78	-	-	53,169

※ファンド I、II のベンチマークは、シティグループ世界国債インデックス(円換算、日本除く)。ファンド III のベンチマークは、バークレイズ・キャピタル新興市場政府ユニバーサルGDP加重インデックス。

(3)委託先運用機関(平成24年度末)

国内株式	外国株式
アライアンス・バーンスタイン	アライアンス・バーンスタイン
インベスコ投信投資顧問	インベスコ投信投資顧問
キャピタル・インターナショナル	ウエリントン・インターナショナル・マネージメント
JPモルガン・アセット・マネジメント	エムエフエス・インベストメント・マネジメント
大和住銀投信投資顧問	JPモルガン・アセット・マネジメント
東京海上アセットマネジメント投信	シュローダー・インベストメント・マネジメント
野村アセットマネジメント	ナティクシス・アセット・マネジメント
フィデリティ投信	野村ファンド・リサーチ・アンド・テクノロジー
みずほ信託銀行	ブラックロック・ジャパン
ラザード・ジャパン・アセット・マネージメント	みずほ信託銀行
ラッセル・インベストメント	三井住友信託銀行
—	三菱UFJ信託銀行
—	メッツラー・アセット・マネジメント
—	ユービーエス・グローバル・アセット・マネジメント
—	ラザード・ジャパン・アセット・マネージメント
—	ラッセル・インベストメント
国内債券	外国債券
大和住銀投信投資顧問	朝日ライフアセットマネジメント
東京海上アセットマネジメント投信	アライアンス・バーンスタイン
ピムコジャパン	ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント
ブラックロック・ジャパン	東京海上アセットマネジメント投信
三井住友信託銀行	野村アセットマネジメント
—	ピムコジャパン
—	ブラックロック・ジャパン
—	レグ・メイソン・アセット・マネジメント
その他	
エー・アイ・キャピタル	ブラックロック・ジャパン
ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント	みずほ信託銀行
GCM インベストメンツ	三井不動産投資顧問
DBJ アセットマネジメント	三菱地所投資顧問
東急不動産キャピタル・マネジメント	三菱UFJ信託銀行
東京海上アセットマネジメント投信	森ビル不動産投資顧問
東京海上不動産投資顧問	ラッセル・インベストメント
農中信託銀行	りそな銀行

※五十音順に掲載

(4)修正総合利回りの推移

(%)

年度	修正総合利回り			
	単年度	5年平均	10年平均	平成8年度以降平均
平成15	21.24	1.86	—	2.85
16	5.76	0.82	—	3.17
17	22.70	6.21	4.97	4.97
18	5.59	7.89	5.11	5.03
19	▲9.91	8.40	3.38	3.70
20	▲18.34	0.16	1.00	1.81
21	17.90	2.36	1.59	2.88
22	▲0.52	▲1.85	2.11	2.65
23	2.06	▲2.51	2.56	2.61
24	15.43	2.44	5.38	3.32

※「5年平均」「10年平均」利回りは、それぞれ当該年度から過去5年間、10年間の幾何平均利回り。

※「平成8年度以降平均」利回りは、資産配分規制が撤廃された平成8年度以降の幾何平均利回り。